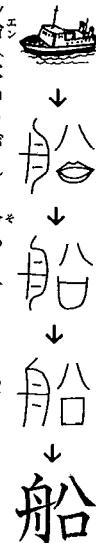


# 船

二年  
筆順  
画数  
クシ  
ふね・ふな

成り立ち



「舟」と「舟」とをくみあわせてつくった字です。  
「水のながれに沿つて下ること。」といいうみの字で、  
「舟」よりも大がたものをいうのにつかわれます。

△船は、大きな川をゆっくりと下つて、ひろいうみにでました。  
△船長は、あらしとたかいたぐら、「ほをおろせ。かじをとれ。」と、船員たちにめいれいしました。

△船員（船をあやつる人。船の、のりくみ員）

△船室（船のおきやくがつかうへや）

△船首（船のあたまのぶぶん。へさき。対「船尾」）

△客船（お客様をのせてはこぶ船。「こうか客船、クイーン・エリザベス号」などといいます。）

△連絡船（しまとしまのあいだや、川のりようぎしのあいだを、お客様やにもつをのせて、いききする船。りようぎしのあいだを連絡するので、連絡船といいます。）

△難破船（あらしにあつたり、いわにぶつかつたりして、こわれてしまった船）

# 線

二年  
筆順  
画数  
クシ  
オン  
セン  
セン  
縫線

成り立ち



いわあながら、地下水がわいてながれ出る形をあらわした「泉（いずみ）〔6年936〕」と、「糸」とをくみあわせてつくった字です。泉のながれはほそいけれども、水はたえることがなくつづいてながれるものです。「泉のように長くつづいた糸」といういみの字です。

今では、糸にかぎらず、「細長いもの」のいみにつかれます。例電線、線香。線路。

また、紙の上に書いた「細長い『すじ』」のことをいいます。例本に「傍線」をひく。

「『泉』は、白と水とに分解できるので、「濁りのない水」のいみ。『白水』といいうみの字と考えることもできます。」

## 使い方

### 語彙例

△教科書の中で、とくにおぼえなければいけない部分に、線を引きました。そしたら、たちまち教科書が、線だらけになつてしましました。

△なぞなぞで、いくつもある点と点を、線で結ぶと、なにかの形があらわれてくるのがあります。ぱくは、線で結ぶ前に、その形を当てられたことがありません。

△電線（電気を通すための、細長い線）

△線香（香料を、細長く固めたもの。仮前にそなえて、香りをたてるもの）

△線路（電車などが通る、細長い鉄製の道。電車の線路を修理する人の労働は大変だね）などといふうに、つかいます。）

△傍線（文章の傍らに引いた線。注意を引くためなどに引く線です。「感心した文章に傍線を引いて、忘れないようにした」などといふうに、つかいます。）

△直線（まっすぐな線。例「曲線」。曲線は曲がった線です。「二点を結ぶ、最短の線は、直線です」などといいます。）